



しまねの社会教育だより



photo かわもとぽかぽか親子プロジェクト(K-POP)“遊びのひろば&乳幼児相談”の様子

特集

地方創生の実現に向けた「地域づくりを担う人づくり」

—島根県社会教育委員の会 答申より—

2016.
9月号

- contents ■ しまねの社会教育の方向性と今の自分にできること
—しまねの社会教育基礎講座より—
- 学びをカタチに!!〔安来市子育てサークル キラ☆キッズ〕
 - わがまちの社会教育の実践紹介 〔雲南市・江津市〕
 - 親学プログラム活用紹介 〔川本町:K-POP〕

地方創生の実現に向けた「地域づ

国は、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、地方創生の諸施策を展開していくこととしています。本県においても、人口減少が続き、地域の存続そのものが危惧される現在、平成27年10月に、地方創生を進めるための「まち・ひと・しごと創生 島根県総合戦略」が策定され、豊かな自然、古き良き文化・歴史、特色ある地域資源、温かい地域社会などの強みを生かし、「子育てしやすい活力ある地方の先進県しまね」をめざして、人口減少に対応しながら魅力ある地域社会を維持・形成していくことが示されました。

このような中、平成28年6月22日、島根県社会教育委員の会による「社会教育で進めるしまねの地方創生(答申)」が島根県教育委員会に提出されました。答申作成にあたっては、「地方創生のためだけの社会教育ではない。本来的な社会教育の正道を主張していきたい。」「地域づくりを担う人とはどのような人なのか。自分たちのまちを磨いていくのは自分たちだという人を育てていかないといけない。」「社会教育が光ってないと、人は育たない。」「社会教育委員の役割を再認識し、社会教育行政とともに汗をかきながら、“地域を担う人づくり”を推進していく必要がある。」など、12名の島根県社会教育委員の皆様による白熱した議論が繰り返されました。

答申では、これまでの取組を振り返り、成果と課題を踏まえながら、今後の「社会教育で進める地方創生」についての島根県社会教育行政の在り方について方策を示しています。



第1537回教育委員会会議において答申のポイントを説明する高尾社会教育委員

答申のポイント(社会教育行政への提案)

■基本理念

社会教育行政は、社会教育を推進するための条件整備を行うとともに、環境の醸成を図り、社会教育活動を奨励することが役割です。

社会教育行政としては、住民主体の活動が展開されるように環境づくりや条件整備をすること、人づくりにつながる教育活動を進めることの両面に取り組んでいく必要があります。

また、社会教育を進める団体・組織等の活動が活性化するように情報提供をしたり、支援をしたりすることも必要となります。

(1)めざすのは社会教育の先進県

しまねは、人と人との豊かなつながりの中で人が育つという強みを生かした社会教育の先進県を目指すことで、一人一人に出番と役割があり、全ての県民が住みやすく暮らしやすい地域づくりを進めることを望みます。

(2)しまねならではの資源を生かした教育環境の整備

しまねの自然、歴史、伝統、風土等の教育資源を最大限に生かして、豊かな感性と社会への参加・参画意識を育てる教育環境を整備することが必要です。

くりを担う人づくり」

—島根県社会教育委員の会 答申より—

■「地域づくりを担う人づくり」への提案

提 案	ポイント	具体的な支援
①学校・家庭・地域が連携・協働した取組の推進	・全ての住民が子どもの教育に関わる	・地域ぐるみで子どもたちを支援する体制づくり ・多極間(世代間、異業種間等)の交流・つながりの場づくり
②地域づくりに向けた体制整備	・社会教育施設における「地域づくりを担う人づくり」に向けた意図的な取組 ・社会教育関係団体、NPO、企業、民間団体等の活動の活性化	・公民館等における「人づくり」の取組への支援 ・社会教育関係団体等への情報提供や支援、交流・つながりの場づくり
③行政の役割の見直し	・行政内の各部課の連携・協働	・県の重点施策との連動 ・社会教育における「人づくり」と首長部局による「実践活動」との連動

答申に関連する平成28年度島根県社会教育行政の事業

答申内容に関連した今年度の島根県社会教育行政における事業は以下のとおりです。

1.学校・家庭・地域が連携・協働した取組の推進

結集！しまねの子育て協働プロジェクト **継続**

平成24年度より、地域住民が積極的に子どもの教育や子育て支援に関わる環境づくりを進め、「ふるさと教育」「学校支援」「放課後支援」「家庭教育支援」等の各事業が連携する仕組みをつくることにより、地域社会全体の教育力の向上を図るための事業を展開しています。

2.地域づくりに向けた体制整備

公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業 **新規**

実証！地域力醸成プログラム **継続**

市町村が地域の教育資源を活用し、公民館等を拠点として「地域づくりを担う人づくり」を進めるために、「公民館ふるさと教育推進事業」の拡充、「地域課題解決型公民館支援事業」「ふるさと体験活動モデル調査研究事業」の新規実施、「多世代がつながる地域づくりモデル事業」「若者の地域参画促進事業」の継続実施により、公民館機能の強化、公民館活動の充実を図るための支援をしています。

答申を受け、島根県社会教育行政として、今後の方向性や施策について検討し、「地域づくりを担う人づくり」について、これまでの事業の見直しや新たな事業の検討など、より充実した施策になるようにしていきたいと考えています。

しまねの社会教育の方向性と今の自

■社会教育の基礎的な考え方、県の社会教育行政の方針と事業

社会教育は、社会の中で教育目標をもって組織的・系統的に行われる教育活動です。

島根県では、「社会教育は、住民の生活課題や地域課題について住民自身が理解を深め、その解決のために当事者意識をもって主体的に実践する人づくりを目指して行う教育活動」としてとらえ、「住民同士による実践活動を通じて、地域の活性化や新たな相互扶助の仕組み・コミュニティを構築し、地域力を高めていくことも目指しています。」

[第2期しまね教育ビジョン21より]

- ① 地域課題解決のための地域力向上
- ② 社会教育指導者の養成



しまねの社会教育基礎講座資料より

■社会教育実践の実際

県内各地で様々な社会教育実践が行われています。東部・西部社会教育研修センター主催「しまねの社会教育基礎講座」では、地域の実態に即して、地域課題を把握し、その課題解決に向かう実践を、各会場で発表していただきました。

出雲会場



出雲市 窪田コミュニティセンター
マネジャー 伊藤 恵さん

発掘!!くぼたの“主人公”
～「コミセン交流会」を
ととして～

コミセンを拠点に活動する
団体同士がもっと交流
できるようにしたい。

松江会場

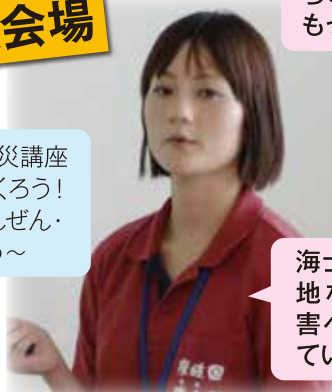


安来市 広瀬交流センター
主事 喜多川 由紀さん

社会教育実践の実際
～人づくり・地域づくり・
今までとこれからを考える～

もっと多くの人に、自分たち
のまちについて関心をも
ってもらいたい。

隠岐会場



海士町 中央公民館
マネジャー 銭谷 郁さん

海士町での防災講座
～みんなでつくろう!
あんしん・あんぜん・
あまちょう～

海士は恵まれた土地
なので、逆に災害への
意識を高めたい。

浜田会場



美郷町 比之宮公民館
主事 桐場 陽子さん

子ども達の豊かな体験活動
～「蟠龍峡で火・水・木・食
を楽しもう!」編～

自然体験活動を通して、
子どもたちに地域のよさ
を知ってもらいたい。

夏だ!! 暑いぞ!!
いこいの広場にみんな集合!!
ほんおどり大会inみの

高校生が主役となって、
地域行事で活躍してい
てほしい。

益田会場



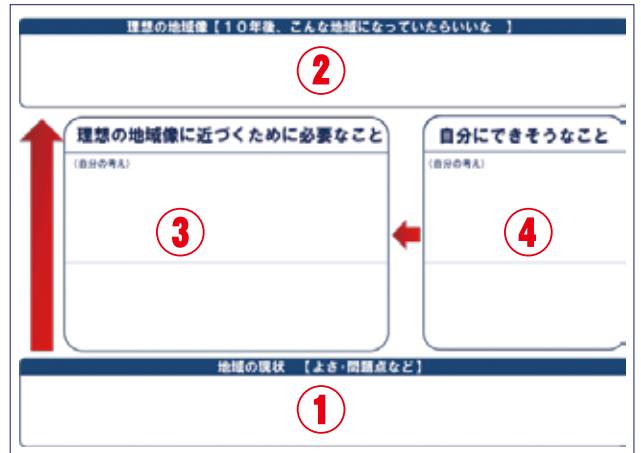
益田市 美濃公民館
主事 椋木 輝美さん

分にできること

「しまねの社会教育基礎講座より」

■これからの方向性と今後自分にできること

右のようなワークシートを活用し、社会教育現場において、自分にできることを考えました。



- ①地域を見つめ、よさや問題点を洗い出す。
- ②理想の地域像・将来のビジョンを思い描く。
- ③「現状」を「理想」に近づけるために必要なことを考える。そのために、どんな仕掛けや手だてが必要か考える。
- ④今の自分の立場で自分にできることを考える。

■全体を通したふりかえり

自分の学びをふりかえり、今後に向けて感じたことや考えたことを共有しました。



社会教育って、とても難しそうで、大変なイメージしかなかったのですが、自分にできることを少しずつ、コツコツと・・・でいいのかなと思えました。

一緒にグループだった方から「視点」というキーワードを教えていただいたことで、さらに理解を深めることができました。



社会教育は学校教育とは違って地域がメインでの活動なんだとわかった。人と人とのつながりを大切に、地域の懸け橋になれたらいいなあと思う。

社会教育のことがよくわかりました。がんばっておられる職員の方をしっかりとサポートできるようにしていこうと思います。



改めて、社会教育とは何なのかを考えるきっかけになりました。自分の言葉でしっかりと社会教育について、伝えられるようになっていきたいです。



たくさんの方の学びをいただきました。異なる市町村・異なる立場の方々と、ご一緒させていただきましたが、刺激になることが多く、共感したり、これはやってみようと思えるような取組を知ることができました。



学びをカタチに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを活かして、地域や現場で“地域力の醸成”につながる実践に取り組んでいる方や団体を紹介していきます。

命の根っこ 家族が根っこ キラ☆キッズ

安来市子育てボランティアサークル「キラ☆キッズ」 代表 山根 久美子 さん

安来市内の交流センターの一室に、乳幼児を連れてきたお母さんたちが集まります。安来市で活動する子育てボランティアサークル「キラ☆キッズ」の「キラ☆カフェ」のはじまりです。「キラ☆カフェ」のメインイベントはスタッフの学びや興味など、“強み”を活かしたワークショップです。

この日は、乳幼児にも安心して使えるアロマを使った日焼け止めクリームづくりです。アロマのいい香りの中、お母さんたちは楽しそうにおしゃべりをし、子どもたちはスタッフと離乳食を食べたり遊んだりして、子どもにもお母さんにも穏やかな時間が流れます。



■親も子どもも 輝く子育て・親育ちを考える

スタッフのほとんどは、親学ファシリテーターとしても活躍しています。もともとは、それぞれで子育て支援の活動をしていましたが、活動をとおして出会った人とのつながりを活かし、「安来の子育て中の方や子どもたちがキラキラと輝く笑顔で過ごせるように」という願いのもと『キラ☆キッズ』がスタートしました。

子どもが輝くには、親が家庭や地域で輝いていなければと思います。“子育て”が“孤育て”にならないためには、みんなで集まって日頃の思いを話し、笑って食べて楽しい気持ちになることが大切。子育ての情報交換や友達づくりの場になればいいなと思っています。参加してくださるお母さんもわたしたちスタッフも、みんな家庭では、“家族の命を支えるお母さん”なんです。人として、母として、心を伝えあって気づきあえる時間をつくっていける“安心・安全な場”をつくっていきたくなんです。



山根さん手作りのスープ

『キラ☆キッズ』のスタッフみなさんは、ほめることを大切にして、子どもやお母さんだけでなく、スタッフ同士もほめあいます。その原点をたずねると、「親学で学んだ“ほめ方”だよね」と話してくださいました。

多くの人とかかわりながら、さらに、その“学び”や“出会い”を自分たちの活動に活かしています。



キラカフェの様子

■地域の人を巻き込んで、『キラ☆寺子屋』

“子どもたちに山や川で思いっきり遊んでほしい!”という想いから、夏休みには『キラ☆寺子屋』の開催です。今年は開催地となる宇波地区の高齢者グループや安来市内で食育活動をしている団体を企画や準備の段階から巻き込んでの取組です。

寺子屋で夏休みの宿題をしたり、手伝ってもらいながら自分たちで食事をつくったり、山登りや川遊びを楽しんだり…。

山根さんは、「普段の生活の中では見ることができない表情をたくさん見ることができて嬉しい。子どもだけではなく、保護者のみなさんや企画から手伝ってくださったみなさんの表情がどんどん“いい表情”に変わっていくのが何より嬉しい」と話されました。



寺子屋 山登り

社会教育の実践紹介



「必要だと思われるからこそ」～雲南市社会教育委員の会の取組～

雲南市教育委員会 派遣社会教育主事 高橋兼造

「社会教育委員を務め、活動していますが、社会教育委員として何をすればいいのだろうかと悩んでいました。今でも少し悩んでいますが、講演会で、『地域でしっかり子育てをすることで子どもたちの健やかな成長を支援することができる』ということを知り、これまでやってきたことは間違いなかったと感じました。」

これは、委員さんが自己紹介で話された言葉です。雲南市では12名の委員さんが社会教育について調査・研究を行い、市の施策について助言・提言をしています。

昨年度は4回の会議を行い、雲南市が進めている子どもたちの土曜日の充実についてワークショップ形式で話し合い、提言しました。さらに、学びの場を拠点とした地域コミュニティの再構築にまで話が広がり、あらためて社会教育の重要性を確認しました。今年度も委員さんの熱心な活動が続いています。

「社会教育委員は教育委員会が必要だと思う人に委嘱している。私たちは積極的に調査・研究を行い、考えを伝えなければなりません。」と社会教育委員の皆さんの意欲は高まるばかりです。



研修の様子



会議の様子

雲南市の社会教育委員会では年4回の会議を開いて、雲南市の社会教育について協議をしています。27年度は土曜日の充実について提言していただきました。

雲南市では学校教育と社会教育が連携・協働し、社会全体で未来を担う子どもたちを育成していこうとする気運が高まってきました。

(雲南市社会教育課 課長)



「ごうつサタデースクール」地域ぐるみの子育て支援

江津市教育委員会 社会教育課 主任 植田 紘司

江津市では、学校支援や放課後支援の取組をすべての学校区で行ってきました。これまでの取組を通じて、子どもの育ちに積極的に関わろうとする大人が増えました。その力を結集して、江津市内にあるほぼすべての交流センター・公民館区でサタデースクールを開設することができました。

この取組により、大人にとって子どもとの接し方を考える機会になり、地域の協力体制やつながりの深まりにも成果が期待できます。

地域の教育力を高め、子どもを育てたいと思えるまちづくりが始まっています。

【学習支援スタッフの声】

“教える”ではなく子どもと“一緒に勉強しよう”と思ってスタッフを始めました。月に一度の機会ですが、できる学習プリントの枚数が少しずつ増えていく子どもの姿を見て積み重ねることの大切さを知りました。「継続は力なり！」これからも子どもと一緒に頑張ります。

【学習支援の体制】

市内20カ所、交流センター・公民館区の85%で開設しています。スタッフ登録数139名、毎月第4土曜日の年間10回開催し、市内の小学生約3割が利用しています。



会場の様子



関わりの様子

これまでさまざまなところで子どもと関わってきた地域の大人が集まり、「自分の力を子どもや地域のために尽くしたい!」とサタデースクールでやりがいをもって活動しておられます。これからさらにつながりのある地域へと高まっていきそうですね。
(西部社会教育研修センター社会教育主事)

親学プログラム活用紹介

[川本町]

K awamoto
かわもと

P okapoka
ぽかぽか

O yako
親子

P roject
プロジェクト

川本町では、安心していろいろな人とかわりながら子育てを行うために、家庭教育支援の1つとして、親学プログラムを取り入れた“K-POP”（かわもと ぽかぽか 親子プロジェクト）に取り組んでいます。

■これまでの親学の現状と今後



「市町村社会教育担当者研修」(H27当センター主催研修)に、川本町の健康福祉課と教育委員会の職員が参加し、家庭教育支援に関する事業を洗い出し、互いに連携できる点はないか話し合いました。

また、公民館や教育委員会で別々な事業として行っていた“親子活動”と“親学講座”を組み合わせるなど、子どもだけでなく、保護者や地域の方が楽しくゆるやかにつながるように、家庭教育支援を意図的に進めています。

“事業” × “親学講座” × “シリーズ実施”

さらに効果UP!つながりUP! 家庭教育支援の充実へ!!

“あそびのひろば&乳幼児相談”と組み合わせ(年3回)



“親子活動”と組み合わせ(年4回 春・夏・秋・冬)



春 山菜採りウォーキング & クッキング
夏 川遊び
秋 鮭の観察会&芋煮会
冬 スポーツ鬼ごっこ

編集スタッフから

なにかをはじめるよりも、やめることの方が難しい時がある。なにかを得ることよりも、得たものを捨ててしまうことの方がよっぽど勇気がいる。新しい自分になりたい!と願い叶えようとするよりも、今までの自分のままでいる方が楽かもしれない。

これからもずっと世の中がこのままならば...それでいいのかもしれない。でも...きっとこのままであるはずがない。“このままではいけない”とか、“変えたい”“変えなければ”という社会の雰囲気の中で、ふと思うことがある。「じゃあ、今のわたしにはなにができるのか」と……。

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第24号は
2月末
発行予定